



寛政新選
抄句集
全

利 9
3869
6

寛政三
60



寛政
新選

抄句經くさ

全

利 9
3869
6



大正七年三月廿五日
寧井平藏氏贈

形句種

シカム 仕
 ユハ 膏の
 カイ 穉人の二代目
 トアウ 戸
 シツイ 神
 ホシ 子

との光小
 好儀
 入性
 果

イカト 今 新と 新よ 九 行の 油の 火
 ニツホ 質と 土まの けと 掛物 差と やし
 ミヨ 土 産り 萩り 大 産 明と せ
 トフ 紙 撰の 紙 読と 志し 海
 ツレエ 高 けと 漆子 土の けと 紙 産 産
 キサミ 御 布と 読と けと 産 刀の 水 車
 レヲフ 尻 向と 草の 産い けと 舟の 読と

レス 珠 教り 小 石 読と 水 産 産
 キツ 行 殿と 土と 紙と けと けと
 ヤ 脈 尺と けと 産の 奴と けと 膝
 タレ 土と けと 人 上 産 けと けと
 シカミ 正 土の 髪と 産子 宮 産と
 キレウ 御 産 ちる 十一 人 産 けと けと
 チムキ 長 走り 向と けと けと けと けと けと けと けと けと

ニシ 賑ふくさ 百姓の魂 翔

ヨハ 与くく 志を理 望みて 歎れ

カハチ 替り 羽 望り 篇と 押つて 事

カタア 看 病し 人 身の 孫と 取ハ 家 侍

ナセ 投 蟾 詠乃 仙 漸く 人へ

カト 被 日 傘 人々 孫子 出

ウ 浮 浪 十 番 切の 産 戸 武士

ストハ 持 世を ぬ 疾し 疾き 花 山

ニ ス 近 唐 石の ち 巫 子 子 子 子

ク 柳 時 代 ち 侍 長 ち ち

ヲ キ 大 不 了 神 ち 給 仕 如 次

ワ ナ 涌 く あり ち ち ち ち ち ち ち ち

ワ ハ ヲ 序 月 夜 移 出 次 砂 子 侍 ち ち ち

タ ア ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち



コハイ 本限漏る序物より由夜生キ結り
ヤハハ 後結し畠乃川より喜の感
カニハ 翡翠翠る下しとと山蓮の上
イタ 今冬 秩へまら母しとる
ヒノ 登まらと朝のちのハ朝
ミイハ 身仕とととと化松しいらし
ナハ 仲居らとととと子し日とる

ミコチ 三ち一野の胡粉等並の兆典主
ニハ 女房ととととと孝行
スエ 且那律寺百姓
ソコ 蘇鉄けんと蘇と酒乃香
アイ 光撰と感し入し母親
スソ 海子冷い入る高松の松風
ヨサ 海し吹流る先、とと

ワニ 蛇ふ馬よ曼珠沙華見せ
夕サ 崇一い宮さくら編る伝
シリ 際子乃際の橋ふ吸よの
シリ 沖子の鏡吉此袖るる
シムハ 吟巻一向ふ人の花お柔
ヲキト 御腎氣をな致しと遠さる
キニ 素麻ふ職乃とやこまると

ヒフ 人と磨れはさるる
ヤサミ 柳の影を教る志質は
ハムカ 辨領の逢も今ひく甲斐下
モアチ 跡の跡り跡ありとる 歌
クノア くら所と今も咽の河さる朝 胡
ニヒナ 二百人 膳子身是と波の音
イロ 今更ふと沈花浅水責

ソテ 俗、も〜寺り元日
モスム 元船、吸よ〜室のわす
フユ 富士小も〜公雨の脚
ハコ 八朔梅子〜兄弟ハ歌
コヨ 赤い海〜大坂純雪
ナヨ 睡〜及、折る蘇
スレ 流中とぬら 流夜の近役

ナハ 女帝花〜サチ〜後の名
コハ 吉〜と〜お入の意
ワニカ 家〜一河〜牛と可花り
スコ 東の年〜と悪〜淋〜よ
ヒモ 日南の〜念〜と〜し
トイタ 泊る水 楽殿紙〜深まつ雪
コニヒ 四つ子 綱責と〜殺ハ〜心〜り〜武志

ヨカヒ 能申の藝入 出来しとて 枕 癖
マツカ 松うらる 泪よりさる 片 鹿
コイテ 吉 戦場色さる 舟 舟
ホチ 仇のそく ぬ 池くし 舟
フア 舟 舟 舟 舟 舟
リウ 利 舟 舟 舟 舟 舟
コ 舟 舟 舟 舟 舟

スカ 舟 舟 舟 舟 舟
フフ 舟 舟 舟 舟 舟
ミチ 舟 舟 舟 舟 舟
チヨ 舟 舟 舟 舟 舟
イ、 舟 舟 舟 舟 舟
オミウ 舟 舟 舟 舟 舟
ワミヒ 舟 舟 舟 舟 舟

アホミ 足とく子早うと下は、水鏡鏡
ムシヒ むくく足の下ふも、如花の雲
ウツナ 鏡乃は鏡なる 長廊下
ウツ 腕おし小弱きく 鏡 鏡
エヲ 烏帽子 小合ぬけく 遠
ハホ 舞 舞 舞 舞 舞 舞
カミ 神乃 鏡乃 鏡乃 鏡乃 鏡乃

ヒス 目 牽 下 瓜 の 接 小 糸 乃 乃
コカ 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
ヲツア 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
コミヌ 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
カタユ 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
フフホ 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
シモ 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

タツヲ 立待のほろい足を思ふき舞
 ア子フ 作向ふ森く寝おしめ女を讀
 キテカ 穿入るは出さしり船よ風替り
 マヤハ 幕ひきたる櫓の足もは櫓の上
 ヲヲセ 穴花の雲を床しき後坐心
 ハヒ 花 睡ふ上の人め 侍
 キト 銀 一両よどんま端々何は

シノ 彼老より 踊をうらご物くらさ
 フレロ 風 鈴 今にも 鈴はいせかた
 アコレ 乃きこもも寝ても 歌を尻り刻
 コイ 琴 可 退く 恋糸の恋
 サイ さゆは月 舞入の 挑 灯
 ヒナシ びいりし 波の画きし 志ろりし
 ハキハ 芥の幕 切きくら 十歳 八右集 門

ノト海苔北 風味一 不きく 美
シキセ尺 三つぬ 吉備の 大匠
タハカ 魂は侍蓮に去る (あし) 龍
ヲシ、大匠の自勝押合ふ 吹雪の
ホナア 外に喜ぶくもち細北上下し
ミ、三輪 神 去ぬとも 凍る
ヤナサ 焼味 併居やいさ 吹雪の

ツケハ 月よ透る 既より 指の削て 吾
シフリ 引さし 取とも 磨く 料印人
メフリ 飯粒北 煮し 残るも 冷を 仕立
ケシ 源氏く 出る 入水 取上
クミ、 善く なる 道に 狐北 為す あり
ナ、イ 何あ ぬあ 切筋を 指さる
シケ 幸抱 活る 雲は 雲は あり あり

世コ線香を折る意路神し
ハチ、花北巻の男共とて女阿り
ノ子ア新共多も茶屋共同下梨木田口
ヒ十百菊張ぞ以雲泣提切
ア十子をも常しは利も色し
ハノ毒もも指は解れ正面
シイ式日とさゆりの三取

ユカウ 香あは川よ一名埋とくま
タカ 子あは川よ一名埋とくま
サナア 淋しきと徳共尻も秋共喜
キカヒ 北山の嶽よ肩しとひし山
モタハ 又音より伊達を好し袴佩
ハへモ 花れた刀平家重代持傳へ
サウ 隆しと重しとちりし雲解

ハト 猿 虎 麝 鹿 一 坊 寺
十トヒ 夜をより 備ふ 狐 一 樽 筆
カヤ 銀 借 里 出 寸 を 後 有 竹
ヒニハ 肘 を 曲 枕 子 法 々 々 寺 の 月
ノアキ 修 世 の 極 油 も 別 々 持 佛 堂
ナコ 七 里 々 々 後 々 々 大 堂
ニニワ 二 階 々 々 寺 々 々 寺 々 々 寺 々 々

ミカハ 湖 子 涌 出 一 急 寺
サタ、 里 の 名 も 高 寺 初 尚 の 方 住 寺
タキハ 大 谷 に 出 候 寺 の 下 楓
カメ 寺 蘇 栲 々 々 女 夫 々 々 枯
コハ 寺 大 の 咽 々 々 寺 々 々 火
ノキタ 寺 々 々 切 々 々 探 々 々 通 一 寺

ス、ノ 虫むしの 数かずの 光ひかりの 能よく 産うむ 産うむ
ス、モ 所ところの 産うむ 一ひとの 虫むしの 此こゝ 産うむ 産うむ
ス、ホツ 居いる 産うむ 産うむ 仁にの 虫むしの 産うむ 産うむ
モ、マ 採とり 産うむ 産うむ 産うむ 今いまの 此こゝ 産うむ
ト、イ 飛とび 産うむ 産うむ 命いのち 産うむ 産うむ
リ、ツ 卵たまごの 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ
ヤ、ウ、リ 山やまの 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ

カ、フ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ
ム、モ、テ 産うむ 産ウむ 産うむ 産うむ 産うむ
ヨ、ハ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ
フ、チ、ウ 古ふるの 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ
ト、ウ、ヨ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ
カ、ヨ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ
カ、マ、ヨ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ 産うむ

カウ 曉 一 浦 高 一
 ヲキ 大 阿 奈 木 乃 井 准
 シタヒ 四 重 木 にも 炭 固 木 ぬ 狹 り 尾
 カ、 神 一 乐 の 鈴 乃 響 を 世 け け け
 ニヨヨ 如 房 の 恩 を 世 け け 世 を 流 り
 ヤイ 約 米 乃 恩 尔 入 木 乃 乃 乃
 フチ 吹 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

ホシ 法 界 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 正ニ 画 馬 小 豆 飯 人 乃 乃 乃 乃
 ミコ正 兄 人 の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 アスル 穴 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 ナアイ 親 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 ナキ 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 ヌクイ 輕 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

カケカ 紙子着る似煉貫此皮子履
ニ十八 多様と似し 西条の櫛此月
ヒココ 香しき 小女を 起さ此
トコ 戸此きぬ、乾き子供集時
ハユリ 花伐る指を切ると此口尻や
ニイナ 二面石以上、石に 千巻 足
フワシ 佛法 二葉家 遠生名 姑 法

ケハサ 源助と 此きも 長閑小女 嵐
コナ 金此 柄と 朱リ 一 乃中
コカム 弘法と おくく 湯と 一 妻此 種
リモ 髪と 此 髪名 此と 此 同
フモ 髪、 髪と 髪と 髪と 此 京
タ、 大名く 出は 種 此 時 京
カサウ 髪と 髪と 髪と 髪と 髪と 髪と

アミタ お世を乞ふ 守りし 了き合ふ
ルツ 寒山拾遺 月より 清きし
カヨ 枯 跡もなきも 雨に しみし
ヨア 嫁の 戸へ さらき 米を 一斗
モカ 多し 乞ふ 乞ふと 祈れ 此 清哥
フユア 相の 本北 山人の 多 相 揚を 棄
カクフ 孝の 本北 山人の 多 相 揚を 棄

ヲレハ 村の 本北 山人の 多 相 揚を 棄
チユ 畜生 緝屋 跡は 一斗 揚
タトハ 相の 本北 山人の 多 相 揚を 棄
ケユ 源氏 清く 清く 友
チムヨ 血を 乞ふ 乞ふ 村中を 皆 清く 友
シウフ 尻 向けし 相 女 此 室を 好 相
セレ 妻 此 多し 乞ふ 乞ふ 切 炭

クツ 唇より 吸はるぬ 可くけ
正ニシ 烏帽子着る 坊色きぬ 十二段
又ウ ぬいす 烏帽子 此上 短冊
トワ 豆腐汁 子孫業 可くけ
ハツヒ 初戎 櫃きく 飯へ 入る
カヌハ かんき 此 袴も 可くけ 袴此上
子イ 園此 草を 入る 可くけ 袴

ケヌク 下結 可くけ 袴 賣
ヤヌ 家 依る 此 園 可くけ 袴 賣
セハ 襟 門 可くけ 羽織 糸 袴 可くけ
タシ 達者 袴 袴 袴 袴 袴 袴
Pツ 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴
エトキ 夕暮 雨 袴 袴 袴 袴
ホミ、 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

カ子ユ 故を庭よ更切る其角りあるあ
ユノ 五湖の茶あは後り花咲
イカス 一日に学よ解るら事たうけ
ソユ 九子と肥と病人
ツイカ 孤くまゝ衣裳火厨斗は軽くと
ソヘソ 思ひの勝る茶碗を当よとま
フシ ぬきまはあまら一さし

ハシウ 了上らる新地の月をち眺め
クロ 口をきぬられさ中
クカ 菊の影を移れ菊の月
ヲイナ 鷺の影を一羽通さ小雛を入ま
イムチ 池の面むらに風情ユかり柳
ユサ 着る衣は麻の呼きし新
イカ 井戸埋むあも紙で仕さ雖

ヒハ 捨細工の毒も 煙 霧
 ヒナツ 一時を何れも替るぬ月と花
 フテハ 山崎此寺此名もつし 毒がきみ
 トカウ 十日戎紙屋此店此を圍き
 タロ 毒をくられくらり 静かき 湯ふ
 ミス ぬもぬもみー 毒くす 釣針
 セア 續々立切 毒 河ひり 毒付

トス 毒火此 聖書 摺 燧 一し
 トモ 毒う 毒う 毒屋 一月 毒付
 クツ 毒切を 毒人 毒
 ユツ 古代の 裂の 毒も 毒付
 ユハホ 毒を 毒を 毒を 毒を
 ケナリ 毒毒も 毒も 毒も 毒も
 テカ 毒は 毒を 毒を 毒を

ニマ 白眼ぶらり 負さ ばいもの
トサハ 雲く出る雲れ 流義れ 花の 後
オ、 去つて 女房の 小あめ 巾 小
ミタ 足にたい 胸り 魚玉 栴 梁
ハキ 鼻れ ぶらり ぬれ うらり
テシカ ち 揺り 首尾 足合さ 帰る 丁
イツカ 和泉屋も あぶ 傳法 の 川きし

イシ 入る 細も ちつき 今迄 言
テカ 子 柄、 有無く 花 名 号
リヲテ 子 後、 花を 今に ちるま とも
ア、 跡 同人、 なき 言き 素 人
テイ 丁 指さ 言き いかう 花
シモ 神 明 遊も 忍白 へ けり
ハイ ち ち ち ち ち ち ち ち

ヒス 火吹流 投捨る 亦之 出流
ウア 乳母ノ乳ノ子ヲ好む草 指
セコヒ 常ノ草ニ在ル草ノ下ニ在ル草
ナト 業ノ亦ノ言ハ覺ラズ 忘 野
ツア 月ノ影ヲ禁ムル 塚 外
ツセイ 三ノ花ノ下ニ 塚 一ノ草ノ下
ヲア 亦ノ影ヲ知ル 阿波ノ花ノ亦ノ影

メホ 眼鏡を以て之を 杖の影を以て
アツハ 網を以て 月影を以て 木を以て
ミアフ 味を以て 蓋を以て 舟を以て
アキ 花を以て 扇を以て 土を以て
マトコ 子ノ影ヲ以て 店ノ下ニ 影
クウ 影ヲ以て 影ヲ以て 影ヲ以て
コキ 影ヲ以て 影ヲ以て 影ヲ以て

ウカヒ 嬉しき此皮も一帯此人たは海
 正アカ 越王に終常きあり、厚に花
 メハカ 妙茶に花に一味をいかに
 サカカ 柔糖に煙に霞かたけり
 ヨカキ 所毛も多折に和食極き古き
 アシニ 有かた正ハ幅の清純室
 カロ 競蓋をく 緑青に 雲

ハウ ちんちん中をたし、気母此醉むん不
 テミス 梳洗を餅をほくとあ枝を糸
 クノ 葛素麴の集るを川秋
 モミ 空あり、同定とるを、その後之
 モウ 床にるし、くくつた、新唄
 タカ 牛子心とく、響作、花にやう
 ウトハ 産ちん、美人の田結花に、強

コウ 色はるかにさういふらん
 サコ 撫をふくまふしをちハ 魂
 クアウ 裁遠くゆきほろりうと生り
 ナサト 大津路に上りて日影をくし
 リク 劉伯倫うらまはく素
 アクア 秋涼きそのけさるるも 舟船き
 メシ 名月あはれ所食くし 力あ

ケキス 下馬先此若菊市山脚こゑ
 トフト 夏腐少も冬此洞の藁 振
 ハワ 妻と尻振るるも此 燈子
 ムハ 吐し流りし 祝儀の件
 ツヒヘ 其島の引をも待たぬあまは
 ヲマ さいふ此福し 買 海
 ニコ 二度此掛を断を しふ

ウコト 上段りあけぬ花の何れぞぞら
 ヤワニ 山まきもあふさう願娘りーま
 カカ 合点ーさう居る海老あつあ
 シアヒ 式日北拿も曲舞花日の車
 ヤチ 岩あまうら 園の院元誌
 ニサア 二の碧り 乙水 穰きおあけし
 ノア 蓬入まられー 荒牧の河

モへ 勿体なきも非あつ 忠
 ナハ なるまを 結り 化さ 毒風
 イア しみ 程う 膚 慈女 望を去り
 マシ ぬくぬ 突とも 老るる 鳥あ
 ヘウ 下多き 信り 信う 砂
 ウイ 葉ト 踊る 出ー 老り
 コキマ 是限りと 狐の 渡る 信の 体

ニスア 女房も濡してはあぢ 粟も餅
 ハナイ 子負ふ家 其の風をいめて来
 カハ 鏡と着せし 花丸 奏 買
 ハカヒ 喜ばるる傘を餘りし人よ逢ふ
 アカ 妹その花根を 煮ゆりの世
 シ、ホ 溜るる下る 園と惣とまてぬ
 ヲツ、 月天も来はと 其徳をささぐは

ヲヌセ 遊んけハ布 扱てし 音先と
 シモ 痺も 糸ハ 子糸 よきころ
 フハ 巾 紗 捌り元 爪 爪粉
 ナハ 啼く 鶯ハ 羽子に 埃に
 ニツク 待く 居る 妻を 欺りよるをよま
 ニコヨ 舞ふ 小貝 端もハ 糸 串あり
 マキ 刺 世の 油 清き 心 なるほし

アニ 何て吞此 質アリ 宝く 長 範
 ウワ 舞 茶店 志き 押
 ソテフ 其日より 手塚の 志き ぶ 奥 信
 ヲクニ おもりの 志き 志き 志き 志き 志き
 フト ふはさき 何とも 十 志き 志き
 イヒワ 志き 志き 志き 志き 志き 志き
 クチセ 志き 志き 志き 志き 志き 志き

シヘカ 砂ま 志き 志き 志き 志き 志き
 シノ 四十一 八字 志き 志き 志き 志き
 サア 猿を 志き 志き 志き 志き 志き
 クニシ 志き 志き 志き 志き 志き 志き
 ヒウフ 志き 志き 志き 志き 志き 志き
 モカ 紋 志き 志き 志き 志き 志き 志き
 フヒ、 志きの 月七 志き 志き 志き 志き

ワウ 美流此初冠を 帽子 うろろ
 ト ちる居の糸を奪ふ 幔 幕
 シカワ 神饗乃穀の味手はまきと先
 ツタイ 清くま合五り伊達をいさこに士
 コト 氷を踏んろ戸をぬりし
 シマハ 藤系や老を隠し一花に社
 ワニヨ 連りまぬ廿五日に地くま

ウモツ 深く響北を討まゝの響に糸を指
 ヲハ 阿蘭陀後を討り青き討
 アカワ 糸をまもるは河を此を時雨
 コノ、 糸袋取中り糸をま 芭蕉翁
 テハア 出語りもハ十金糸 ありまき
 トナシ 乃灌り縄はを 一 陸 眺 先
 ワハワ 後をの柄を先如う 後り 初

シカホ 浄ろりて 清き水 家内ほやき出し
ハフニ 蓮の葉北 氷と市中人 音のなり
ワ、 ちか 能 命と 与 写北 危 室
スサ 次 鷹の 魚と けり 先も 八つ 晴
ナメニ 名も 考た 名ふ北 船と 柳の 月
ヒス 軒と 与 けり 与 けり 傘
セイ 吉 磁の 牡丹 家北 多 ぼもの

ツハ、 業を 曲 持 花北 ちか こと
カナ 寒、 柳と 命と けり ち 道
アカ 春き 枝 踏ん けり 舟 雲北 園 柳
シキ 氷 徒の ちか けり けり けり
シニア 皴 顔と 似ぬ 肩の けり 赤毛 柳
エハカ 碎 けり 色 初日の 木戸 けり 掃 けり
サイヲ 雑 兵と 息 次 けり けり 大 柳 雲

シモエ 昔幕の跡に 園家 三ノ川 巴
 ハウカ 越下信徳の月影に 川流り
 タノ 大味の園切 笑ふ 笑 樂
 ノマニ 能楽の舞 饗宴を 喜ぶ 喜 月
 ナキ 長柄の けしき 建礼の 時
 シイ 清い けしき 一条の 家
 コエ 春の 鶯も 尾の 二日月

コス 小山園を 捨る 後
 キモコ 孫侍の 昔の けしき 時
 シミハ 城の 内子 とも 又 時 謀
 アハ 安ん ぢや 捨る 時 喜 子
 ナキナ 内侍の 昔の けしき 喜 子
 イキ 伊勢の 跡に 遊 喜 子
 ヒモテ 而も 内子 とも 又 時 出 花

ノハニ 咽り けりきり 萩れ味ひ
イニ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
ヒヒヤ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
クナマ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
テカワ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
シミハ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
イツ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思

ヤア 柳生此れを亦く 月日の思
キコツ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
シシマ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
ホアト 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
ミテナ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思
カイミ 吾れを此れとてしを亦く 月日の思

ミヅ 汚るれ 尻を 濡る 蝶 (
 ヲカク 驚 押さ 紙を 襖に 上合 下き
 リタ 雲 嵐 折 むる 棚の 秋風
 ヲキ 喜 樂を 冷 心 — 中 此 喜
 テヨ 丁 固 っ ち ち を 起 きて 芽
 ナ、フ 庭 へ 待 生 海 藻 の 葉 を みる 物 あり
 ムウ む くら 出 くる ま け う へ を 下 崩

ヨウ 妖 靈 星 と う ち ち 大 寄 せ
 カハア 刺 力を 毒 と 門 徒 の 曉 の 月
 カシ、 古 巻 の 花 毒 の 字 子 酒 っ ち ち 後 り
 ヲニ 常 一 川 裂 け っ ち ち ち ち ち ち
 エフア 麻 紗 寄 ち 節 ち ち 馬 の 著
 ヲ、ツ 後 月 お 寄 ち ち ち 暮 力 ち ち ち
 ノシ 女 夫 寄 居 ぬ ち ち 志 ち ち ち 草

巳夕ミ 藤をみまくなきよ 瓶に水鏡
 ノカヲ 俣正のみまぬく 是れ 藤 新
 子ヒ ちうらむ 肩ぬ 昔 導 の 息
 ナトカ 牽山 肩 富をくく るる 崎 池
 トムカ 肩うへを 弓を花まふ 勝 軍
 ナハ 巧戸を 越せし 喜れ 曙
 夕子 高那れ 山の 嶺を 岩り 麓

ワヲコ 曲物を 鏡を 砂粒の 小石系
 ヨカレ 赤り 風薫る 童 筆の 筆
 ユスツ 夕暮に 涼しさを 嘆 过る 花
 ニカア 如 瓶に 功能を 秋 海を
 ツイト 慈 雀と ちうらむ 喜 理を とも云り
 ツア 月り 物まひ 照れ 草 燈
 テア 歌の 仇を 了り 是 幸を 祀

ケホコ 傾城の法華經の根法
モノ 物集の戸北待宵
ヨハミ 寺の歌の母の歌の法
サテ 枝の歌の母の歌の法
レヒ 寺の歌の母の歌の法
ナホ 寺の歌の母の歌の法
ハヤス 寺の歌の母の歌の法

カハヤ 及寸菊の歌の法
マサア 寺の歌の母の歌の法
ハト 寺の歌の母の歌の法
チハ 寺の歌の母の歌の法
スユ 寺の歌の母の歌の法
メニ 寺の歌の母の歌の法
フナハ 寺の歌の母の歌の法

テイ 丁 種て 海一 危の 井戸 智
ヲヌウ 権の 屋接る 月も 浮名 立
ウヘハ 毒の 傳別 家ら 世ふ 花結る
ヒヤ 豆結 姥婿 一 茶袋 袋 海
アシ 藍、 種く 走く 布 切
タシ 高取 の 志 海く 雲 晴
ヒアサ 紫と 赤き 糸ふ 赤鳩 の は、 ぬ 云

シッ 子 練の 抱 衣 袋 走く 走く 走く
ニヒキ 木 偶の 抱 衣 袋 走く 走く 走く
サカ子 西 け 結 糸 丸く 結 糸 袋 柳
ムテ 知 年 一 走 糸 走 糸 走 糸
サス 三 年 一 走 糸 走 糸 走 糸 懐 胎
エハト 孫 一 走 糸 走 糸 走 糸 走 糸
テア 蝶 一 走 糸 走 糸 走 糸 走 糸

ヲカイ おのふ 諸 買のふく 辛 加 ー ー ー
 ツヌ 過 賣 此 ぬ ぬ ぬ 態 の 臆
 ホカテ 宝 物 三 派 三 三 ぬ 自 形 之
 ホウヲ 陰 障 之 卯 月 八 日 方 生 三 三 三
 ウシ 飢 一 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
 タウユ 代 表 の 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
 二 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

ナウイ 名 の 月 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
 ミ 一 都 此 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
 ヲメハ 公 一 三 三 三 大 工 の 三 三 三 三 三
 マ 又 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
 キトウ 相 の 本 此 通 り 三 三 三 三 三 三 三 三
 タレ 魂 棚 の 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
 コ 急 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

ホカウ 惚く事さき海に流るく結る
リハ 着を洗くさ 花の 白髪
スサマ 双立れ 簪ハ 髪くさ 山法師
キア 起信 おまに 河の 手くさ 波
ロヒハ 六波羅に 勢と 渡さ 橋くさ 為
ヲモト 為 風巾を 物中をく 願ふ 事さ

トキ、 頼む 事さ 借く 切く 事さ ぼく
コフワ 暮さく 事さ 舟を 子供が 月が 友
アヲ 昔 事さ 達 戸の 為く 水 流
フチユ 舟を 流 深さく 流る 事さ 流
カトハ うけ 事さ 也 東方 翔く 舟 舟
テフ 手 相 撲く 事さ 舟 舟 流 事さ
ナツフ 舟を 白く 事さ 舟を 悔く 事さ 舟 舟

コア 口より 弱る まい かく 志く
 ツミモ 持る あを 足き 民む じんき 弱る け
 ツ子サ けき け 猫子 回 袖を させ け
 テナ け 信ふ 事も 願ふ けり
 ケ 上 今 誓山 けり 越王の 旗
 ワサカ 銀差の 鞘も 一 きの 隠き 里
 テトト 浦志 ぬ け けり も 流れ 上

ナホア おもひ け 免 惚く けり も 表 けり
 アシハ 芦の 穂の 下 けり も 今 けり
 ココシ けり けり けり けり けり けり
 ウハ け 明 け 弱 箱の 二 後
 ニミ け け け け け け け
 シナ 十二の 様子 け け け け け
 ニイア け け け け け け け け け

ハエ とうはまうり此 足は上 町
ハ 盗人の 個もまは 井の中
カト 加茂の 葵の 遠山 磯
タケ 春の 梅の 夢の 笑
フウ 父母 左の 肉の 大 酒
コウ 意の 白と 青の 稲 光り
タニ 田の 雨の 夢の 女 房

ハル 夢の 春の 足 味 線
ムモ 虫 宙 園と 時 舟 舟
ケハモ 空 淵と 花の 使 文 度
ナト 花 舟 蝶の 舟 網 舟
フハ 物 舟の 境 刺 富 舟 舟
ナウ 折 舟 秘 曲 舟 舟 舟
クハ 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

夕、
クヒク
トサワ
ヒメコ
ヲハ
セ
下カ
主夕好もちく如瀬谷の厨
な外乃陰ふて床の層比能
とく痛くも定ま、道小娘涙し
開のくくあつ、と共娘よん 庭
大坂乃花見と歌次と行 後
鶯 鶯 鶯 鶯 道乃ふり附
まんさく半も只娘孤を

シカ
ホタキ
カコヲ
ツミシ
モ
オヲア
ヌトテ
入内後 春 新ハ云傳
佛唄りおそ 百姓乃福福
銀借りし行 ともく娘大を毛
包きる まくと鼓乃恐し詔
借りし借り 街く 客夫の流
氣遠く 男此方々 哀たを
借りし 町々 被も子と通し

クケコ 雪の月 譲りすしこのこよみ 貴
オミ 女の 獲よ 水々 切とへ 既
ホへ 牡丹 花らるる 勢家 伯の 役
ソシカ 儂 しくし 白髪 夫りの 困ひ 主
セテ 関の 角 抜く みる 中 後
フク 冬 まで 短く 雲 此 入 定
ミレウ ね 風をつ 巻く 若 和 年 為

ムカ 室の 針を 免ぬ 主の 鼻 赤
ウタヒ 赤 水の 毒る 葉ら 下 平 其 虫
ツア 毛 六つ しく 女 舞の こと 去
ミウ 脈 あて しく 乳 母は 居 位 ね
ツカ 磔 とよ 命 敵く 証 張る
ハソヌ 喜乃 命 録 録 のと 命 脱す 命
一ツユモ 録 命 舟 命 復 命 命 命 命 命

ヨサ 嫁くまを妻に酒に折檻
 フスレ 大きな巣に梅をさす清浄地
 イトメ 一里出く隣の人手採り
 ワソ子 若庇の剝る日参る招をさる小
 子ア 茶子かわかぬお茶子今水
 フイ 冬のさくらも入まなく飲之
 ミユヲ 三月月が湯漬斗若送る狼

メナフ 抱けをさる小猿牙は舟人
 タ、 船を揺り切る鷹の逆羽
 ヒユ 猿かき足さるり肥て居る妻
 フカ 月も十寸足の花鏡四つ橋
 テユ 三味線縁有古橋の品店ぬ
 カヨロ 丁流るおのり世よあら懸流こ
 カモ 舟工の加減を結ハ初産

毛ウキ 之船の海蔵桶かゝるあく出し
 カニ 惟子——ける役者をぬき
 コユメ 船夷うらの公雨露も留ま合は
 ウハ 牛もあふ萩を刺のじ
 シク 一々髪を振るゝ口をさる
 ノカニ 鳴るるそ煙さひやと 近所
 ムナヒ 蒸葉子の名は押親も先部も

イユ 入性根——とく空
 子カシ 恨を包い出るも花乃左り持
 子コト 寐ぬ妻よこまるとのふ秋神
 カヒナ 外副き人の代りて世にしゝる
 ナハ 苗代入手とるも天穂織
 フハ 武士のまきまき川系浪遊の月
 又モ 後多を姫小ととる谷汲

ケナカ 依城乃名を呼ぶし世と書すの流
 ヤイ 藪のう坊主岩倉の月
 タア 遊治ししし 遊の種
 ミア 水たらし淀岩を流し日
 ヒニ 拾ふしやうか二世の跡未
 ヨヒ 嫁と名をけり 雖小長負る
 アシ 万川をく梅乃下子教下流

寛政三辛亥正月

大坂書林

心無格節も久遠守町
 培屋東町板

